

# 漆芸美術館だより



田口善国《みのりの朝》1946年第2回日展（個人蔵）

# 92

生新の時2021—漆芸の未来を拓く—  
漆芸の《チーム日本》—東京2020によせて—  
あなたの《推し》を教えてください！  
2020年度寄贈品紹介  
第2收藏庫棟が完成

2021年6月24日発行

# 生新の時2021―漆芸の未来を拓く―

「生新の時2021―漆芸の未来を拓く―」では、全国各地の四年制大学で漆芸を専門的に学んだ大学及び大学院の卒業生・修了生の作品を展示します。本展覧会は2008年以来、12回にわたり作品を紹介してきましたが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、やむを得ず開催を断念しました。今回は十分に対策を講じたうえ、5月21日からの開催に向け準備を進めてきましたが、感染拡大状況により開催延期の憂き目を見ました。昨年から引き続き情勢下での臨時休館は残念でなりません、公開の機会が制限される作者たちの無念とは比べ物になりません。展示作品はいずれも大学への入構が制限されるなどの逆境下で制作に着手され完成した力作です。作者たちの努力が1人でも多くの人の目に留まることを切に願っています。

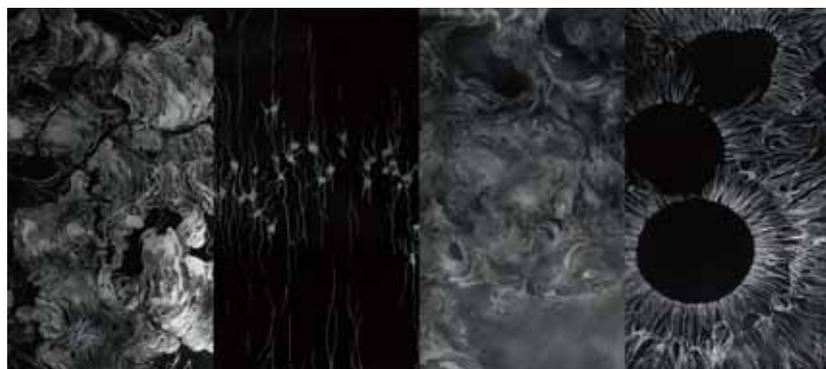
《forme》野田愔眞（東京藝術大学大学院修了）  
高さ2mを超える巨大な昆虫を乾漆で造形している。アルミを切り透かした翅や複眼などに用いられた螺鈿、色漆、銀粉の鮮やかな発色が先鋭な印象をもたらしている。



《コロートル》川村瞳（東北芸術工科大学卒業）  
猫とウーパールーパーを掛け合わせた架空の生物を表す。変塗と漆の艶が両生類的な特徴を強調する一方で、愛嬌あふれる動作や形が造形されている。



《朱漆花鳥堆錦沈金八角東道盆「花信風に舞う」》  
上江洲安龍（沖縄県立芸術大学大学院修了）  
甲面の稜線は風、側面の沈金による地文様は花々を表現。ツバメは堆錦による。飽和状態まで顔料が練りこまれた漆(堆錦餅)を圧延し、文様に切って貼り付ける技法である。



《じょうぶな頭とかしい体》杉本小百合（金沢美術工芸大学大学院修了）  
20cm 四方の各平面に銀粉による研出蒔絵が施され、いずれもヒトの身体が宿す様相に発想を得ている。様々な大きさの粉を使い、描き分けられる諧調は実に幅広い。



《風車》高幸（富山大学大学院修了）  
粘土モデルから作成した3Dデータを用いて綿密な調整を行った。控えめな装飾に造形の繊細さが際立っている。

# 漆芸の《チーム日本》―東京2020によせて―

東京オリンピック・パラリンピックを目指して情熱を燃やしてきた我が国のアスリートたち。その姿に敬意を込めて漆芸の世界からエールを送ります。富士山や桜など、日本を象徴する様々な文様が描かれた作品と共に、日本代表の愛称に関連する文様が描かれた作品を併せて展示します。

その美しい山容から信仰の対象として崇められ、日本のシンボルとされてきた富士山は、古くは万葉集を始め、芸術文化の様々なジャンルで題材として取り上げられてきました。本展覧会では、季節や見る方角などによっても表情を変える富士山の姿を、漆芸作品を通してご覧いただけます。



(写真1)  
藤井観文《片切沈金東海道五十三次扇面額》  
1965～1974年  
石川県輪島漆芸美術館蔵



(写真2)  
板谷光治《沈金漆箱「春」》  
1993年第10回日本伝統漆芸展  
石川県輪島漆芸美術館蔵

会場正面でひときわ目を引く「赤富士」(伊藤裕司、2015年改組新第2回日展)は、作者の伊藤裕司氏より昨年寄贈を受けた作品で、当館では初の展示となります(「だより」91号で詳しくご紹介しています)。鬱蒼と茂った樹海と雲海を見下ろして赤く染まる、富士の威容は圧巻です。また、藤井観文の「片切沈金東海道五十三次扇面額」の中から、富士山が描かれた作品を選りすぐって展示いたします(写真1)。箱根や原など、東海道沿いに望む景色をお楽しみください。

花を咲かせたかと思える間に散りゆく桜もまた、日本人の心象風景に深く結びつき、数々の歌や絵

画、小説などのモチーフとなっています。桜の花びらが風に舞う様子を時絵で表した「花吹雪時絵雪吹」(佐藤貞一・松井松濤、20世紀前半)や、重なり合う桜の花を沈金の点彫りによる濃淡で表現した板谷光治「沈金漆箱『春』」(写真2)、螺鈿による桜の花がお椀を彩る「桜文螺鈿椀(明月椀)」(三上揚光堂、20世紀前半)など、多様な技法によって表現された桜をご覧ください。

さらに、日本国の美称である「瑞穂の国」を想起させるみずみずしい稲穂が描かれた田口善国《みのりの朝》(表紙)や、番浦省吾「陽文盛器」(20世紀後半)、小森邦衛「籃胎盛器『日暈』」(1995年第12回日本伝統漆芸展)など、日の丸を連想させる作品の数々を展示します。

この他、日本代表チームの愛称にちなんだ作品として、撫子の文様が描かれたもの、青い色の作品、龍や雷神が描かれた作品なども併せてご紹介いたします。それぞれの作品がどの日本代表チームを表しているのか、ぜひ会場でご確認ください。

(河原法子)

# ▼あなたの《推し》を教えてください！

みんなの《推し》コレクション…推しコレ！ 作品人気投票実施のご案内

平成3年（1991）に開館した石川県輪島漆芸美術館は、令和3年（2021）に開館30周年を迎えます。開館以来、多くの善意により寄附された作品、購入にいたった作品などにより、当館の所蔵品は1400点を超えるまでになりました。

そこで、開館30周年記念事業の一環として、漆芸美術館の全コレクションを対象に、作品の人気投票を実施します。さらに、その結果をもとに、皆さんのお気に入りのコレクションでつくる「みんなの《推し》コレクション…推しコレ！」展を開催します。あなたの思い出の作品、もう一度見たい作品、大好きな作品に、清き一票を投じてく

ださい。みんなが選んだ《推し》と出合える展覧会ぜひ参加してみませんか。

投票していただいた方の中から抽選で30名様に招待券と当館オリジナルグッズをプレゼント！抽選に参加希望の方は投票用紙に住所氏名をご記入ください。

また、今年4月に完成したエントランスホールの特別展示室の周囲には、「コレクションでみる匠たち」と題して重要無形文化財保持者と日本芸術院会員の所蔵作品をタペストリーで紹介しています。こちらも投票の参考にしてみてください。

## ●投票期間

2021年10月24日まで

## ●対象作品

輪島漆芸美術館 全館蔵品

（所蔵品図録掲載作品）

## ●投票方法

エントランスホール特設会場にて所定の用紙に必要事項を記入のうえ投票

## ●注意事項

- ・投票の際にいただいたコメントはご紹介させていただくことがあります。
- ・個人情報の提供はお客様の任意です。但し、記載のない場合は抽選対象外となりますので予めご了承ください。
- ・取得した個人情報はプレゼント発送以外の目的では使用いたしません。
- ・取得した個人情報は当館にて責任をもって厳正に管理し、プレゼント発送後速やかに破棄いたします。
- ・当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- ・抽選結果に関するお問い合わせはお受けできませんので、予めご了承ください。



## スタッフおすすめの逸品



辻 光典《風神雷神》1952年第8回日展特選朝倉賞

裸婦のモチーフ、色面と線による大胆な構成、伝統技法にとらわれない漆の応用。加えて、2メートルを超える巨大な平面に目を見張ります。貼付されたラベルには、かつて「東京銀行上野支店」に所在したことが記されています。当時も、その堂々たる姿を多くの人々に披露していたに違いありません。

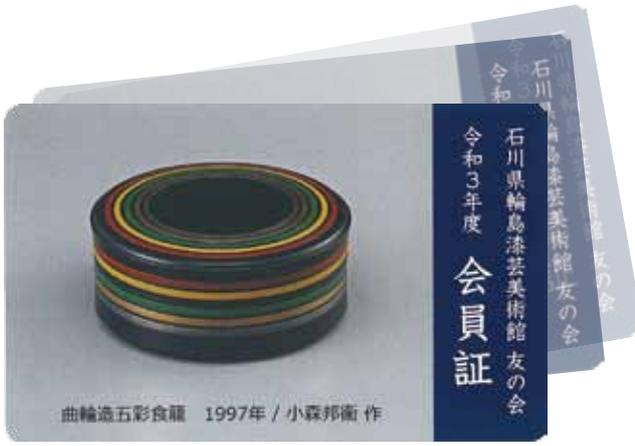
その大きさのため、展示のタイミングはよく見計らわなくてはなりません。「漆芸の《チーム日本》—東京2020によせて—」では6年ぶりにお目見えます。ぜひ迫力を直に感じてください！（T.A.）

## ▼2021年度友の会会員募集中

当館では魅力的な特典満載の友の会入会を随時受付けております。

### ■会員の特典

- 1 招待券が2枚進呈されます。
  - 2 展覧会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体料金となります。
  - 3 相互割引提携館主催の展覧会入館料が、団体割引となります。
  - 4 「友の会だより」「漆芸美術館だより」ほか美術館情報等の提供が受けられます。
- \*この他にも会員限定の催し、特典があります。



会費		
個人会員	家族会員 *1	賛助会員 *2
1年 1,000円	年額 2,000円	年額 5,000円
2年 2,000円		

\*1 代表者と生計を共にする2名以上

\*2 本会発展にご協力いただける個人及び団体

## ▼2020年度寄贈品紹介

令和2年度は次の29件の寄贈がありました。ご支援賜りました皆様には感謝申し上げます。

竹に雀沈金卓上膳／三谷忠作

兎漆芸額／三谷吾一

狐漆芸額／三谷吾一

梅器局／三谷吾一

三谷吾一資料一式／三谷吾一 以上、三谷慎氏

榎木漆器店製品(椀類)／榎木漆器店

黒漆塗菓子椀／榎木漆器工房 以上、榎木道子氏

秋乃野沈金飾筥／三谷吾一

千羽鶴沈金三段重・重台／三谷吾一

千羽鶴沈金煮物椀／三谷吾一

千羽鶴沈金卓上膳／三谷吾一

以上、匿名希望個人

「静峡」／坂本正春

「映」／坂本正春

「駈る」／坂本正春

「飛泉」／坂本正春



三谷吾一《秋乃野沈金飾筥》



坂本正春《飛泉》



坂本康則《雨のシンフォニー》

凝視蒔絵手箱／坂本正春

以上、坂本康則・信子氏

蒔絵箱「雨のシンフォニー」／坂本康則

坂本康則氏

目代巖関係資料一式 小西豊子氏

彫刻宝船飛鳥文小福形椀／前大峰

桜文螺鈿椀(明月椀)／三上揚光堂

塗分吸物椀／渡辺喜三郎

溜塗銘々盆／城取邦雄

海老蒔絵福寿夫婦椀／服部峻昇

以上、匿名希望個人

漆皮木型(漆皮金彩提盤)／増村紀一郎

増村紀一郎氏

「赤富士」／伊藤裕司 伊藤裕司氏

沈金箱「梅花空木」／西勝廣 西勝廣氏

牡丹蒔絵沈箱／二代井波喜六齋

吉祥文蒔絵洋燈台／二代井波喜六齋

以上、谷川晴久氏

以上29件(受納受付順)

# 第2収蔵庫棟 が完成



荷解室



収蔵庫

2021年4月26日、約1年にわたって建築工事が続いていた石川県輪島漆芸美術館第2収蔵庫棟が竣工を迎えました。これまで、各方面からのご寄附などにより当館のコレクションは充実していく一方、作品管理の心臓部ともいえる収蔵庫が手狭になっていました。竣工式は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限して挙行することとなりました。谷本正憲石川県知事をはじめ、ご来賓をお迎えした式典の後、テープカット、内覧が行われました。

新収蔵庫は、既存の収蔵庫と連絡通路で結ばれ、展示室まで同一フロアで

の作品移動が可能となっています。外部からの作品搬入時に使用する荷解室には、ゆとりあるスペースを設けました。毎年恒例の企画展「生新の時―漆芸の未来を拓く―」などに多い大型作品の搬入も、より安全に行うことができます。

作品を収める収蔵庫は、漆芸品の管理に適した温湿度を保ち、できるだけその変動幅を小さくする必要があります。そこで、外壁と内壁に空間を設けた二重壁とし、庫内はもちろん壁内にも空調を行うことによって、外気の影響をさらに低減できるよう図られています。また、近年多くなっている地震に備え、庫内には、作品の転倒や落下防止のため、開口部にメッシュ引き戸やベルトが装着されたスチール製の棚を設置しました。

作品の管理は、ここから生み出される展覧会の質にも影響します。新収蔵庫は、建材から発生するガスの除去などのため、まだ稼働することはできません。しかし、庫内の環境が落ち着き、使用に適した状況となれば、一層の美術館活動の充実を目指して活用し、本建築工事にご支援いただいた関係の皆様へのご厚意にお応えしたいと考えております。

